

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「行ってよかった、行かせてよかった学校」

エンパワメントスクール(ES)の役割を十分に果たし、人間力を向上させ、自律し自立することで社会貢献できる人材を育成する。

- 学びを大切にし、基礎学力の確かな定着と「夢」実現に向けた発展的学力の育成。
- 規範意識・コミュニケーション力を身につけ、自己と他者を大切にできる人間力の育成。
- 自己有用感に満ち、社会貢献できる知識とスキルの育成。
- 生徒が安心して挑戦できる安全な学校づくり。

2 中期的目標

1. 魅力ある「わかる授業」で学力をエンパワーする

- (1) ESの基本である学び直し学習を着実に行之、基礎学力の定着をはかる。
 - ア モジュール授業や入門科目により、基礎的基本的学習事項の確実な定着をはかる。
 - イ 全ての授業で「何をどのように学ぶのか」「何ができるようになるのか」を明確に伝え、生徒の主体的に取り組む態度を育成しながら授業の実践に取り組む。
- (2) 1人1台端末等ICTを活用した学びの充実をはかる。
 - ア 「個に応じた学び」に取り組むための活用方法を研究し、実践していく。
- (3) 授業力向上研修の充実をはかる。
 - ア 保護者・地域・中学生等を対象とした授業公開を年2回実施。
 - イ 授業見学期間を学期ごとに設け、教員相互の見学を積極的に行い、自身の授業の工夫・改善につなげる。

【評価指標】

※生徒対象学校教育自己診断における授業満足度を令和9年度に90%以上にする。 [R4 77.4%、R5 78.3%、R6 82.2%]

※生徒対象学校教育自己診断におけるICT活用度を令和9年度に90%以上にする。 [R4 82.6%、R5 80.3%、R6 78.3%]

※教育産業が実施する学力診断テスト(2学期実施分)におけるD3の割合を令和9年度に全体の30%以下をめざす。
[R4 31.8%、R5 38.7%、R6 51.6%]

※教員対象学校教育自己診断における学習指導に対する工夫・改善に対する意識を令和9年度に90%以上にする。 [新規 R6 81.8%]

※教員対象学校教育自己診断における授業内容に対する他教科との情報共有度を令和9年度に70%以上にする。 [新規 R6 48.5%]

2. きめ細やかな生徒指導で人間力をエンパワーする

- (1) 進路実現に必要な基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
 - ア 生徒との対話を通して、良好な関係性を築くことで、安易な遅刻欠席の防止やマナー・ルールの徹底につなげる。
- (2) コミュニケーション力を向上させ、自己と他者を大切にし、安心・安全で充実した学校生活が送れる環境を維持する。
 - ア 人権教育の取り組みを通じて、自己と他者を大切にする姿勢を培う。
- (3) いかなるいじめも許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた対話を重視した生徒指導。
 - ア 日常の観察に加え、いじめアンケート等の情報収集を丁寧に行い、問題事象の未然防止・早期発見に努める。
 - イ SC等の多様な専門人材や関係機関との連携を強化し、教育相談・支援委員会の充実をはかる。

【評価指標】

※生徒・保護者対象学校教育自己診断における学校満足度(「入学して・させてよかった」)を令和9年度に90%以上にする。
[R4 生徒・保護者 91.1%、R5 生徒・保護者 87.4%、R6 生徒 72.9%・保護者 90.4%]

※生徒対象学校教育自己診断における学校充実度(「学校が楽しい」)を令和9年度に80%以上にする。 [R4 72.8%、R5 71.9%、R6 73.2%]

※総遅刻数・欠席数とも前年度比10%減を達成する。 ※コロナ禍の影響で令和4年度の数値は比較対象としない
[遅刻数、R5 2780回、R6 3840回、欠席数 R5 5072回、R6 5837回]

※中途退学率0%をめざす。 [R4 0.3%、R5 0.3%、R6 0.86%]

※生徒対象学校教育自己診断における指導への納得度を令和9年度に80%以上にする。 [新規 R6 62.9%]

※保護者対象学校教育自己診断における指導への共感度を令和9年度に90%以上にする。 [新規 R6 77.5%]

3. 3年間を見通した進路指導で「夢」実現力をエンパワーする

- (1) 基礎学力の定着から発展的学力の育成につなげる。
 - ア 社会で役立つ資格取得や検定試験に向けて積極的に取り組み、就職はもちろん、4年制大学への進学につながる学力を養成する。
- (2) 高いモチベーションを生む・維持する取り組みを通して、進路実現をめざす。
 - ア 進路指導部主導型の進路指導で、3年間を見通したキャリア教育を行う。
 - イ 各系列においても、大学や企業等の多様な人材・機関との連携を深め、生徒の職業観を醸成する。

【評価指標】

※教育産業が実施する学力診断テストにおける(2学期実施分)におけるCゾーンの割合を前年度比10%増にする。 [新規 R6 11.2%]

※教育産業が実施する学力診断テストにおける(2学期実施分)におけるBゾーンに達する生徒を育成する。 [新規 R6 10名]

※資格取得者・検定合格者数を令和9年度まで300名以上にする。 [R4 514名、R5 253名、R6 341名]

※進路未決定卒業生率を減少させ、ゼロをめざす。 [R4 8.2%、R5 2.1%、R6 1.7%]

4. 地域に応援され、地域に貢献できる学校づくり

- (1) 「本校の魅力」発信を積極的に行い、入学者選抜志願者確保に向けてより一層取り組む。
- (2) 地域との連携を強化し、地域に応援される学校をめざす。

【評価指標】	
※中学校訪問 150 校実施を組織的に取り組み、維持する。	[R4 156 校、R5 200 校、R6 169 校]
※学校説明会を年 5 回実施。参加者合計 800 名以上をめざす。	[R4 ～ 6 年度年 5 回実施。R4 669 名、R5 707 名、R6 567 名]
※第一志望での入学者の割合 95%以上をめざす。	[R4 91.5%、R5 89%、R6 92.7%]
※文化祭・体育祭合わせて 1000 名以上の来場者をめざす。	[R4 578 名、R5 503 名、R6 872 名]
5. 組織改善と人材育成を通して教員力をエンパワーする	
(1) 情報共有と教員間連携を強化し、良好な協働関係づくりと授業力・指導力向上をめざす。	
(2) 全教員のスキルアップをはかる校内研修を充実させ、「学び続ける」教員を育成する。	
(3) 教職員のコンプライアンス意識の向上を通して、危機管理体制及び安全・衛生管理の徹底を行う。	
(4) 職務の効率化に取り組み、教員の時間外在校等時間の縮減を行う。	
【評価指標】	
※教員対象学校教育自己診断における各分掌・各学年間連携の円滑度を令和 9 年度までに 80%以上をめざす。	[R4 62%、R5 83%、R6 56.2%]
※年間を通じて時間外勤務 360 時間以内をめざす。	[360 時間超 R4 31 名、R5 25 名、R6 20 名]

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 7 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
〈生徒〉○結果 ●分析 ○「学校に行くのが楽しい」が向上 (73.2%→81.2%) ○「授業がわかりやすい」がわずかに向上 (82.2%→84.2%) ○「先生の指導には納得できる」がわずかに向上 (62.9%→70.3%) ○「先生は責任をもって授業やその他の仕事にあたっている」がわずかに向上 (86.0%→89.4%) ○「学校の部活動は活発である」がわずかに向上 (67.1%→74.5%) ●授業や教員の動き、学校生活に対する肯定的な回答が増加。生徒の状況や理解度を踏まえた、教員の授業力や指導力が向上してきたと考えられる。 ●生徒の状況に寄り添い、対話を重視した生徒指導の取り組みの成果が表れている。 ○「人権について学ぶ機会がある」がわずかに向上 (80.5%→85.6%) ○「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」がわずかに向上 (85.4%→87.6%) ○「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」がわずかに向上 (75.8%→82.0%) ●いじめへの対応の肯定率が年々向上している。日々の人権指導や相談体制への取り組みの成果と考えられる。 ○「日頃から清掃活動に取り組み、校内美化に努めている」がわずかに低下 (66.0%→63.0%) ●R4 年度と比較すると 20%近く低下。校内美化は学習環境の整備であるから、指導を徹底していきたい。 〈保護者〉 ○「成城高校に入学させてよかった」が 90%以上を維持 ○「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」がわずかに向上 (70.3%→74.5%) ○「学校の生徒指導方針に共感できる」がわずかに向上 (77.5%→79.8%) ○「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応している」がわずかに向上 (81.0%→87.8%) ○「学校の部活動は活発である」が向上 (61.4%→72.9%) ○「清掃が行き届き、生徒の生活環境が整っていると感じる」がわずかに向上 (91.0%→94.8%) ●学校生活や授業に対する肯定的回答は生徒結果よりも評価されている。学校での生徒の様子を HP や SNS、学習支援クラウドサービス等で伝えてきたことで、学校に対する保護者の理解が深まったものと考えられる。 ●環境整備については、生徒と保護者とで評価が分かれた。校内環境に対する生徒の意識が向上してきたことの成果と評価したい。 〈教職員〉○結果 ●分析 ○「生徒は校則や決まりをよく守っている」が向上 (48.5%→71.0%) ○「生徒はしっかり挨拶するようになった」が向上 (45.5%→77.4%) ○「教育相談体制が整備されており、生徒は担任以外の教職員とも相談することができる」が向上 (81.3%→96.5%) ●生徒の意識と教員側の認識がほぼ近似しており、生徒の頑張りが客観的に評価される状況に至っている。 ●相談体制についても、生徒・教員の評価が近似しており、教員の連携の取り組みの成果が出てきた。	第 1 回学校運営協議会 議事録 1 日時 令和 7 年 6 月 24 日(火)14 時 2 内容 第 1 号議案 令和 6 年度「学校経営計画・評価」について 〈事務局提案〉 令和 6 年度 学校経営計画・評価について、別紙の通り報告 第 2 号議案 令和 7 年度学校経営計画(案)について 〈事務局提案〉 令和 7 年度 学校経営計画(案)について、別紙の通り報告 〈質問・意見等〉 ・生徒指導部の教員の時間外勤務が多いとあるが、業務を抱え込まないために具体的に取組んでいることは何か。 ・チーム担任制の具体的運用はどのようなものか。 ・チーム担任制について、保護者への周知を丁寧をお願いしたい。 【連絡事項】 1. スクール・ポリシーについて 2. 令和 7 年度の行事予定について 3. 各分掌・学年より、本年度の取り組みについて 〈質問・意見等〉 ・今後、志願者確保のために、中学生に対する魅力発信が重要。 ・学校から保護者への情報発信の方法を統一すべきではないか。 ・保護者は「学び直し」をさせたいと考えていても、実際に受験生や在校生が学び直しをしたいと考えているかが疑問である。中学生に対して、説明会等で学校の特色をより丁寧に伝えていく必要があると思う。 第 2 回 学校運営協議会 議事録 1 日時 令和 7 年 11 月 19 日(水)14 時 2 内容 第 1 号議案 令和 7 年度「学校経営計画」進捗状況について 〈事務局提案〉 学校経営計画進捗状況について、別紙の通り報告 〈質問・意見等〉 ・遅刻指導は、配慮が必要な生徒への対応も引き続きお願いしたい。 ・遅刻欠席指導は、大学や短期大学ではなくなるため、高校での指導はありがたい。 第 2 号議案 令和 10 年度以降の大阪府公立高等学校入学者選抜にむけた系列・コース再編について 〈事務局提案〉 系列・コース再編計画について、別紙の通り報告 〈質問・意見等〉 ・社会と自分とをすり合わせるカリキュラムというのはありがたい。 ・ブルーカラーブランディングを検討してはどうか。 ・かつて成城高校にあった写真コースの要素は残してほしい。 ・成城高校が大事にしてきた工業を活かしてほしい。 【連絡事項】 1. 各分掌・学年より、本年度の取り組みについて（進捗状況） 〈質問・意見等〉 ・特になし

○「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活用している」が向上（84.9％→96.7％） ○「授業内容について、他教科の担当者と話し合う機会がある」が向上（48.5％→66.7％） ○「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われている」が向上（56.1％→86.7％） ○「各会議が情報交換と課題検討の場として有効に機能している」が向上（53.1％→79.3％） ●昨年度の大きな課題であった「教員間の連携・情報共有の弱さ」に対する今年度の取組みの成果である。 ○「普段から清掃に取組み、校内美化に努めている」が減少（94.0％→80.7％） ●生徒・教員ともに環境整備に対する否定的回答が増加。次年度の大きな課題である。	第3回 学校運営協議会 議事録 1 日時 令和8年1月21日(水)14時 2 内容 第1号議案 令和7年度「学校経営計画・評価(案)」について 〈事務局提案〉 学校経営計画評価(案)について、別紙の通り報告 〈質問・意見等〉 ・生徒が指導に納得できない場合というのは、どのようなものか。 ・携帯電話の使用については、家庭でしっかりルールを作って守ってもらいたい。 第2号議案 令和8年度「学校経営計画(案)」について 〈事務局提案〉 令和8年度 学校経営計画(案)について、別紙の通り報告 〈質問・意見等〉 ・なぜ先生はそんなに長時間働いてしまうのか。 ・本校は定時制課程があり、全日制の生徒は下校時間が早いことから、先生方も早めに帰ることができるのではないか。 【連絡事項】 1. 各分掌・学年より、本年度の取組みについて（達成状況） 〈質問・意見等〉 ・特になし
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 魅力ある「わかる授業」で学力をエンパワーする	(1) ESの基本である学び直し学習を着実にを行い、1年次における基礎学力の定着をはかる。	(1) ア ・モジュール授業による、国語・数学・英語の基礎的基本的学習事項の確実な定着をはかる。 イ ・全ての授業で「何をどう学ぶのか」「何ができるようになるのか」を明確に伝え、生徒の主体的に取り組む態度を育成しながら授業の実践に取り組む。	(1) ア ・学力判定指標D3(2回目)の割合を前回比10%減。 [47.2%→51.6% 4.4%増] イ ・生徒対象学校教育自己診断における授業満足度 90%以上。[82.2%]	(1) ア ・1、2年は3%減、3年は4.1%増で達成できなかった。指導方法を工夫していく。(△) イ ・「授業満足度」84.2%で、目標には達していないが、昨年度より上がった。さらなる向上に努める。(○)
	(2) 1人1台端末を活用した学びの充実	(2) ア ・教務部・情報処理部を中心に「学びの保障」を組織的に行う。	(2) ア ・生徒対象学校教育自己診断における1人1台端末活用度90%以上。[83.6%]	(2) ア ・「端末活用度」89.1%でほぼ達成できた。(○)
	(3) 授業力向上研修の充実	(3) ア ・公開授業を年2回行い、授業に対する校外からの意見を求める場とする。 イ ・研究授業・授業見学・研究協議を、計画的・組織的に実施する(年2回)。	(3) ア ・教員対象学校教育自己診断における学習指導に対する工夫・改善に対する意識の肯定率90%以上。[81.8%] イ ・授業観察用紙提出数100枚以上。[106枚]	(3) ア ・「工夫・改善に対する意識肯定率」83.4%で、目標には達していないが、昨年度より上がった。さらなる向上に努める。(○) イ ・授業観察用紙提出数102枚で達成できた。(○)

府立成城高等学校

2 きめ細やかな生徒指導で人間力をエンパワーする	(1) 進路実現に必要な基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成	(1) ア ・対話を重視した指導で良好な関係性を築くことで、安易な遅刻欠席の防止やマナー・ルール徹底につなげる。	(1) ア ・総遅刻数・欠席数を前年度比10%減。[遅刻3840回、欠席5837回] ・皆勤者数を前年度比10%増。[41名] ・生徒対象学校教育自己診断における指導への納得度70%以上。[62.9%] ・保護者対象学校教育自己診断における指導への共感度80%以上。[77.5%]	(1) ア ・前年度同時期比において、遅刻数8%減、欠席数7%増で達成できていない(遅3021、欠5310回)。欠席者への支援が課題である。(△) ・皆勤者34名(1年6名、2年19名、3年9名)で達成できていない。指導方法の工夫が必要。(△) ・「指導への納得度」70.3%で達成できた。令和5年度からは20ポイントの上昇である。(◎) ・「指導への共感度」79.8%でほぼ達成できた。(○)
	(2) 自己と他者を大切に、安心安全で充実した学校生活を送れる環境を維持	(2) ア ・あらゆる教育活動を通じて、人権教育を計画的・総合的に推進する。	(2) ア ・生徒対象学校教育自己診断における「人権について学ぶ機会がある」の肯定率80%以上。[80.5%]	(2) ア ・「人権学習機会への肯定率」85.6%で達成できた。(◎)
3 3年間を見通した進路指導「夢」実現力をエンパワーする	(1) 基礎学力の定着から発展的学力の育成	(1) ア ・頑張った生徒の表彰を行い、学習に対するモチベーションを向上させる。	(1) ア ・学力判定(2回め実施)指標Cゾーンの割合を前回比10%増。[新規11.2%] ・学力判定指標Bゾーンに達する生徒を育成。[新規10名]	(1) ア ・学力判定の成績上位者や2回めでの伸び率上位者の名前を校内で掲示し、モチベーションの向上につなげた。 ・学力判定指標Cゾーン1回め・2回めともに13.2%で目標には達していないが、Dゾーンの増加はなかった。(○) ・Bゾーン7名、Aゾーン1名で達成できた。(○)
	(2) 進路意識を高める取り組みの実施	(2) ア ・卒業後を見据えた計画的な進路指導と生徒・保護者への積極的な情報提供を進路指導部が主導して実施する。 イ ・各学年・系列においても、大学や企業等の多様な人材・機関との連携を深め、生徒の職業観を醸成する。	(2) ア ・保護者対象学校教育自己診断における進路指導満足度90%以上。[92.0%] イ ・生徒対象学校教育自己診断における「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率90%以上。[86.9%]	(2) ア ・保護者の「進路指導満足度」91.5%で達成できた。(○) イ ・生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率90.0%で達成できた。(○)

府立成城高等学校

4 地域に応援され、地域に貢献できる学校づくり	(1) 令和8年度入学者選抜志願者確保のための広報活動 (2) 地域との連携強化	(1) ア ・中学校訪問や校内外での学校説明会に組織的に取り組む。 ・HPや「成城ニュース」による情報発信を実施。 (2) ア ・生徒会活動・部活動における地域行事への積極的参加。 イ ・地域等に文化祭・体育祭への観覧呼びかけを実施。	(1) ア ・中学校訪問 150 校以上。 [169 校] ・学校説明会を年 5 回実施し、参加者数 700 名以上。[5 回、567 名]。 ・塾・中学校教員対象の説明会を実施する。 [塾 5 名、中学校 14 名参加] ・令和 7 年度入学者対象アンケートで「本校を第一志望で入学」の回答 95 % 以上。 [92. 7%] (2) ア ・地域行事へ年 3 回参加。[3 回] イ ・文化祭・体育祭を合わせた来場者数 1000 名以上。 [872 名]	(1) ア ・中学校訪問数 169 校で達成できた。(○) ・学校説明会 5 回実施。参加者数 700 名で達成できた。(○) ・11 月に実施。中学校 8 校 8 名参加。(○) ・令和 7 年度入学者の第一志望での入学数は 92. 1% で目標には少し及ばなかったものの昨年度結果を維持した。自校の魅力発信にさらなる工夫を行う。(○) (2) ア ・地域行事（盆踊り、敬老フェスティバル、餅つき大会）に生徒会やダンス部等が参加。(○) ・文化祭・体育祭の来場者数は 832 名、昨年度同様 800 名以上を維持したが目標には達していない。 (△)
5 組織改善と人材育成を通して教員力をエンパワーする	(1) 情報共有と連携の強化 (2) 「学び続ける教員」の育成 (3) コンプライアンス意識の向上と危機管理体制・安全衛生管理の徹底 (4) 職務の効率化と時間外在校等時間の縮減	(1) ア ・各会議等を通して、丁寧な情報共有や課題検討を行い、協働する教員集団をつくる。 (2) ア ・「成城みらいプロジェクト」活動の充実。ミドルリーダーの育成と経験年数の少ない教員の学びの場とする。 ・現状の課題に即した教員力向上のためのスキルアップ研修の実施。 (3) ア ・職員会議等において、不祥事防止、個人情報の適正管理、職場のハラスメント防止について周知し、その都度注意喚起を行う。 イ ・危機管理、安全衛生管理に関する校内マニュアルの見直しを行い、全教職員に周知・徹底する。 (4) ア ・職務が勤務時間内に終わるように、効率的に取り組む。 ・計画的に年次休暇・振替休暇を取得する。	(1) ア ・教員対象学校教育自己診断における会議の有効度 70% 以上。[53. 1%] ・教員対象学校教育自己診断における各分掌・各学年連携の円滑度 70%以上。[56. 2%] (2) ア ・「成城みらいプロジェクト」主催の研修を年 1 回実施。 [1 回] ・教頭・首席主催によるスキルアップ研修を 3 回実施。 [4 回] (3) ア ・不祥事事象ゼロをめざす。 [3 件] イ ・年 1 回の研修を実施。 [2 回] (4) ア ・年間を通じた時間外在校等時間 360 時間以内をめざす。 [360 時間超 20 名]	(1) ア ・「会議の有効度」79. 3%で達成した。(◎) ・「連携円滑度」86. 7%で目標を大きく上回った。(◎) (2) ア ・10 月に授業力向上・業務改善研修、12 月にペップトーク研修を実施。(○) ・5 月(AED・進路・学習支援クラウドサービス)、6 月(CC)、8 月(進路・SSW)に計 6 回実施。(◎) (3) ア ・個人情報の紛失・誤廃棄 3 件。(△) イ ・5 月（コンプライアンス研修）7 月（危機管理研修）に実施。(○) (4) ア ・360 時間超 18 名（全体平均 291. 53 時間）。(△)